

青年部・女性部

福祉活動と

コミュニティゲームメンブリング

神奈川県逗子市商工会女性部

今年の冬は例年になく全国的に寒く、特に寒冷地では大雪に見舞われ、各地で大変な苦勞をされているニュースを見聞きするたびに、鎌倉・逗子・葉山の風光明媚なこの地に腰を落ち着けていられる幸せを思わずにはいられません。

気候も幸いしてか、逗子の年齢別階層では六五歳以上の占める割合が二四・四%と非常に高く、神奈川県内における市町村別老年者人口は湯河原町に次いで二番目と高い。

人口は五万八〇〇〇人あまりと横ばいの状態が続き、商工業者にとつては決して喜ばしい状態ではないと思われれます。また、鎌倉市のように名所旧跡は少ないですが、夏に訪れる海水浴客は年間三八万人。これも逗子の特徴といえます。

逗子市商工会女性部は昭和五十二年設立され、二八年目を迎えます。

健康作り事業や教養講座、一泊研修事業や福祉奉仕活動などを積極的に推進しています。部員数は現在一三〇名、廃業等で退部される方も多く、一時期より減少してしまいました。が、活発で女性らしい事業を心がける精神は今も引き継がれています。

各委員会が精力的に活動している事例の中で、平成十五年度から、新たな福祉活動として、逗子市久木にある「清寿苑」という介護老人福祉施設を訪問するようになった内容を紹介させていただきます。

きっかけは、この四月で一期半、三年を迎える改革に燃えていた平井女性部長のアイデアです。「女性部事業で、市内の老人ホームを訪問できないかしら」という投げかけから、この活動は始まりました。部長に動機について伺ったところ、「父が一〇〇歳過ぎた頃より体調を崩し、亡く



逗子市商工会女性部メンバー

なるまでの約二年間、時々養護老人施設に預かっていただいたのですが、他の入院されていらっしゃる方々をみていると、家族がお見舞いに来てくださらない方もいて、お気の毒に思っておりました。

そんなきっかけで、部長就任直後から養護施設慰問を一事業として、役員会に取り上げていただいたのでした。

それまでは福祉活動、奉仕活動として、月に一度、土曜日の早朝にJR逗子駅前を中心に清掃奉仕をしていましたが、ここ数年、どうしても多くの女性部員さんに多くの負担がかかってしまいがちでした。

確かに、駅から離れたところの部



平井部長を中心に進行する女性部スタッフ



手拍子に合わせて「炭坑節」を合唱する参加者

員さんが協力しようにも、交通手段がなかったり、商売によっては仕込みに忙しい時間だったりということもあって、長年繰り返すうちにメンバーが固定化していったようです。

老人ホームの訪問という新しい活動が実現する背景には、逗子というまちが、地域が高齢者の居住も多く、女性部員自らの平均年齢も上がってきて、「老人ホーム」を身近な存在と感じていたことがあったのかもしれない。

「地域の商工会女性部としては、地域内の老人ホームを訪問し、喜んでいただけたら、それも立派な奉仕活動じゃないかしら」「自分たちだってすぐお世話になるかもしれないし、慣れる意味でもいいじゃない?」。

なかばいつもの軽い気持ち（雑談の中、現在清寿苑の待ち順位が約五〇〇人なので、私たちを特別入苑させてくれるかもと大笑い）の会話が、いつのまにやら毎月欠かさずの第二金曜日のお務めとなってしまうのです。

「清寿苑」訪問の内容は、一緒に大きな声を出し、楽しい歌の数々を歌うことから始めました。もちろん、準備なしでは成り立たないので、毎回季節に応じた選曲をし、あの手この手で歌詞や譜面を手に入れるやら、遠くからでも見える大きな歌詞カー

ドを作るやら、担当役員を中心に準備を進めています。

回を重ねるうちに、おしゃべりや簡単な体操のコツも覚えて、お年寄りの皆さんはもちろん、清寿苑のスタッフの皆さんと一緒に、いろいろなことにもチャレンジするようになりました。その甲斐あってか、初めはぎくしゃくしていたものの、今では女性部の訪問を楽しみに待ってくださっているようです。

懐かしい歌を歌う時、時には思い出がある歌なのでしょうが、涙を流したり、声を出して泣いたりする方もいらつしゃいます。

お年寄りの皆さまが本当に喜んで、毎月第二金曜日を心待ちにしてくださっていることがわかり、毎回毎回、かえって女性部の皆が励まされるようになりました。

今振り返ると、部長以下みんなで材料を持ち寄り、いろいろなことを準備して、よくここまで来られたなーと感心しきりです。

ともあれ、逗子市商工会女性部の福祉活動は四年目に入り、やってよかったと心から思える事業に育っています。

ほんの少しだけ状況を再現してみましよう。まず皆さんに「逗子市商工会女性部です。ピアノ伴奏はまり子さんです」とご挨拶の後、発声練

習をし、選択してきた季節の歌を歌います。目を閉じて歌詞だけを聴いていたとき、頭の中で故郷やら子供の頃の事を思い出していただくこともあり、約四〇人集まった中で何人かは涙を流したり目を潤ませてしまっています。

部員さんいわく、「部長いけないんだ、泣かしちゃった!」と叱られますが…。

選曲をする中で、毎回欠かさないのが「幸せなら手をたたこう」と、賑やかな「炭坑節」等の民謡です。各自鈴や太鼓、手拍子で、にぎやかに囃して歌ったり踊ったり、一緒に楽しんでいくようです。

時間的には約一時間ほどで終わりますが（お年寄りの方は、それ以上は疲れてしまうそうです）、また来月何ってもよいですか?の問いにたくさん拍手をいただき、うまくコミユニケーションがとれています。

最近では、他の施設関係者の方からも訪問依頼がありました。働いている合間の施設慰問なので、現状ではこれまでに以上に時間調整ができないため、丁寧に断りいたしました。

今後ますます高齢化が進む中、行政や地域の施設と連携をとりながら、できる限り積極的に推進していきたくて考えています。